

第2回

ジェンダーの視点で語る 仏教者による社会実践

2024.05.17 金 17:00~19:20

開催趣旨

「現代仏教の社会倫理に関する研究会」は、仏教の社会倫理とは何かを問い、仏教の社会倫理を現代社会にどう具体化していくかをさまざまな視点から捉えなおし、研究を行っている。このたび、第1回セミナー「なぜいま仏教の社会倫理を問うのか？」（2023年5月開催）に続く第2回目のセミナーとして、「ジェンダーの視点で語る仏教者による社会実践」をテーマに話し合う。基調講演はInternational Network of Engaged Buddhists (INEB、エンゲージド・ブディスト国際ネットワーク)のアンチャリー・クルターチ氏に、「積極的平和の実践：ジェンダー平等と社会的包摂の行動」についてお話しただく。そして、国内外で仏教者の社会活動に携わる三善恭子、枝木美香、ラングナー寺本・ベッティーナ清真の各氏が、コメントする。対面あるいはオンライン、どちらでも参加できます。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

基調講演

『積極的平和の実践：ジェンダー平等と社会的包摂の行動』



アンチャリー・クルターチ INEB平和のためのネットワーク
MS. ANCHALEE KURUTACH プログラムマネージャー

2007年より「International Network of Engaged Buddhists：エンゲージド・ブディスト国際ネットワーク (INEB)」に参加。カリフォルニア州サンフランシスコで30年間、難民や移民を支援した経験を持ち、拷問や家庭内暴力から逃れた人々の支援に尽力した。また、2004年から2011年まで米国の社会的仏教団体であるBuddhist Peace Fellowship (仏教平和フェローシップ)の理事を務め、専門知識を提供した。2021年から、高齢の母親の介護を手伝うためにタイに戻る。INEBでは、USAIDの支援を受けて「平和のためのネットワーク」プログラムの主要プログラムマネージャーを引き受けている。

申込み

<https://forms.gle/9JTCrGzt77B2tv9B8>

※チラシのQRコードからお申込み下さい。



会場 / オンライン ※会費はともに1,000円* (学生無料)

- ① 龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール
(〒600-8268京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1)
- ② オンライン (ZOOM) **

*申し込み後、お支払方法をお送りします。

**オンライン参加の方には、ZOOMのURLをお送りします。

主催

現代仏教の社会倫理に関する研究会

共催

龍谷大学世界仏教文化研究センター
Japan Network of Engaged
Buddhists (JNEB)

協力

龍谷大学実践真宗学研究所

プログラム

17:00 開会

17:05 基調講演 アンチャリー・クルターチ (INEB平和のためのネットワーク
プログラスマネージャー)

テーマ『積極的平和の実践：ジェンダー平等と社会的包摂の行動』

※日英逐次通訳

17:45 パネルディスカッション

- ・ 三善恭子 (公益財団法人世界宗教者平和会議WCRP日本委員会総務部長)
- ・ 枝木美香 (認定NPO法人アークス仏教国際協力ネットワーク事務局長)
- ・ ラングナー寺本・ベッティーナ清真 (浄土真宗本願寺派極楽寺衆徒、建築家)

18:30 休憩

18:40 ディスカッション

- ・ ファシリテーター 嵩 満也 (龍谷大学教授)
- ・ 総合コメント 島 蘭 進 (東京大学名誉教授、龍谷大学客員教授)
- ・ 質疑応答

19:20 閉会

※敬称略

パネリスト



三善恭子 (康衣)

公益財団法人
世界宗教者平和会議
日本委員会総務部長

2006年立正佼成会に入職、2009年から世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会に勤務し、2020年から総務部長を務める。WCRP日本委員会では女性部会や法人運営を担当し、国内外の諸宗教間プログラムに携わる。2012年、英国バーンガム大学で「宗教間対話組織と国連の協力」を研究し修士号取得。2022年、上智大学実践宗教学研究科で「宗教間対話組織におけるジェンダー主流化」の研究で修士号を取得し、現在、同研究科博士後期課程に在籍。研究テーマは、宗教間対話の公共的役割とジェンダー視点導入の必要性について。認定臨床宗教師の資格を持ち、関東臨床宗教師会事務局長も務める。

パネリスト



枝木美香

認定NPO法人アークス
仏教国際協力ネット
ワーク事務局長

島根県松江市生まれ。1996年からタイにおいて、HIV/AIDSの啓発活動や陽性者の自助グループ支援に携わり、1998年に帰国してアークス仏教国際協力ネットワークに入職。以来、仏教者によるNGOの魅力にとりつかれつつ、限界をいかに乗り越えられるのか、日々模索中。女性と仏教・関東ネットワークの自称メンバー。INEBにも時々参加。

パネリスト



ラングナー寺本・
ベッティーナ清真

浄土真宗本願寺派
極楽寺衆徒、建築家

1965年ドイツ、ケルン生まれ。1988年来日。大学：1989～91年、京都大学建築学科と龍谷大学仏教学の研究生。1995年アーヘン工科大学建築学科大学院修了。現在京都女子大学の非常勤講師。建築デザイン：1996～2002年関西の建築事務所に就職。2002年から非常勤講師とARCHITECTURAEUME Design & Consulting Office所長。2017年～現在 本願寺事務推進会議委員。仏教：2008年得道。大阪教区西成組極楽寺の衆徒、坊守。2018浄土真宗にしなり「のの」の会設立、花祭り子供会、国際文化交流。

コメンテーター



島 蘭 進

東京大学名誉教授
龍谷大学客員教授

1948年東京生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程・単位取得退学。東京大学大学院人文社会系研究科・教授、上智大学グリーンケア研究所所長、現在はNPO東京自由大学学長。専門は近代日本宗教史、宗教理論、死生学、生命倫理。著書に「日本人の死生観を読む」「ともに悲嘆を生きる」(ともに朝日新聞出版)、「いのちを“つくって、もいいですか?」『宗教を物語でほどく』『なぜ「救い」を求めるのか』(ともにNHK出版)、『グリーンケアの時代』(共著、弘文堂)、『宗教学の名著30』、『神聖天皇のゆくえ』、『新宗教を問う』(ともに筑摩書房)、『教養としての神道』(東洋経済新報社)など。

お問合せ

現代仏教の社会倫理に関する研究会事務局 メール：bukkyosyakairinri@gmail.com